

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	794 阿山ふるさと資料館維持管理経費	会計	01	一般会計
		款	10	教育費
		項	05	社会教育費
基本 施策	36 歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	目	02	文化財保護費
		細目	435	文化財施設維持管理事業
行革大綱の重点事項番号	4	細々目	54	阿山ふるさと資料館資料館維持管理経費
担当部課	コード 450400 名称 教育委員会 生涯学習課	担当者 氏名	福田典明	連絡先 22 - 9681 (内線) 3840

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	・旧阿山町に関連する民俗資料及び歴史資料 ・市民や観光客	※対象件数
成果(どうする)	・適正に収集され、展示される。 ・旧阿山町の歴史・文化を理解してもらう。	
根拠法令・要綱等	文化財保護法・阿山ふるさと資料館の設置及び管理に関する条例	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	* 常設展示と施設の管理を行なう。	
社会情勢 の変化等	18年度より指定管理となる。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	伊賀市文化都市協会
2 配置人員	1.0 人
3 年間運営費	100 千円
4 市内の 類似施設	柘植歴史民俗資料館、大山田郷土資料館、上野歴史民俗資料館、島ヶ原資料館

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
開館日数		日	目標	280	目標	280
			実績	280	実績	280
回		回	目標		目標	
			実績		実績	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
入館者数		施設の特徴を生かした事業を展開し、市民や観光客に足を運んでもらうか。	人	目標	900	目標	900
				実績	820	実績	404
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求	
					(千円)
直接事業費計(A)	100	100	100	100	
Aの財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他	0	0		
	一般財源	100	100	100	100
事業投入人件費(B)	0.0 人	0.0 人	0.0 人	0.0 人	
フルコスト(A)+(B)	100	100	100	100	

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律で実施が義務付けられている事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事務事業	
有効性	個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対称者以外の第3者にも利益が及ぶ事業	
達成度	国や県、民間が同様のサービスを提供している。	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している。 事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない。 【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
効率性	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響は大きい。 【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
他	当初設定した計画を 100% 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○	ふるさとの森と一体的な管理を行い、経費の軽減を図っている。

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	ふるさとの森公園の管理者が資料館の入館希望があったときに開館する。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 ふるさとの森公園の入館者のなかで、一定数の見学希望者がいて、興味を持って考古資料・民俗資料を見学している。

今後の方向性(Action)

評価者氏名(担当課長)	楨田 ちえみ
事業の方向性	【方向性】 縮小 【理由】 常設展示は行わないが、見学を希望する人には入館していただく。
現時点における課題、その他	平成21年度より、希望者があったときに開館とした。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成20年度より入館者が半減し、今後も増加は見込めないと考えられることから常設展示は行わないこととし、平成23年度からは資料保管庫として管理を行う。但し、見学希望者には入館してもらう。